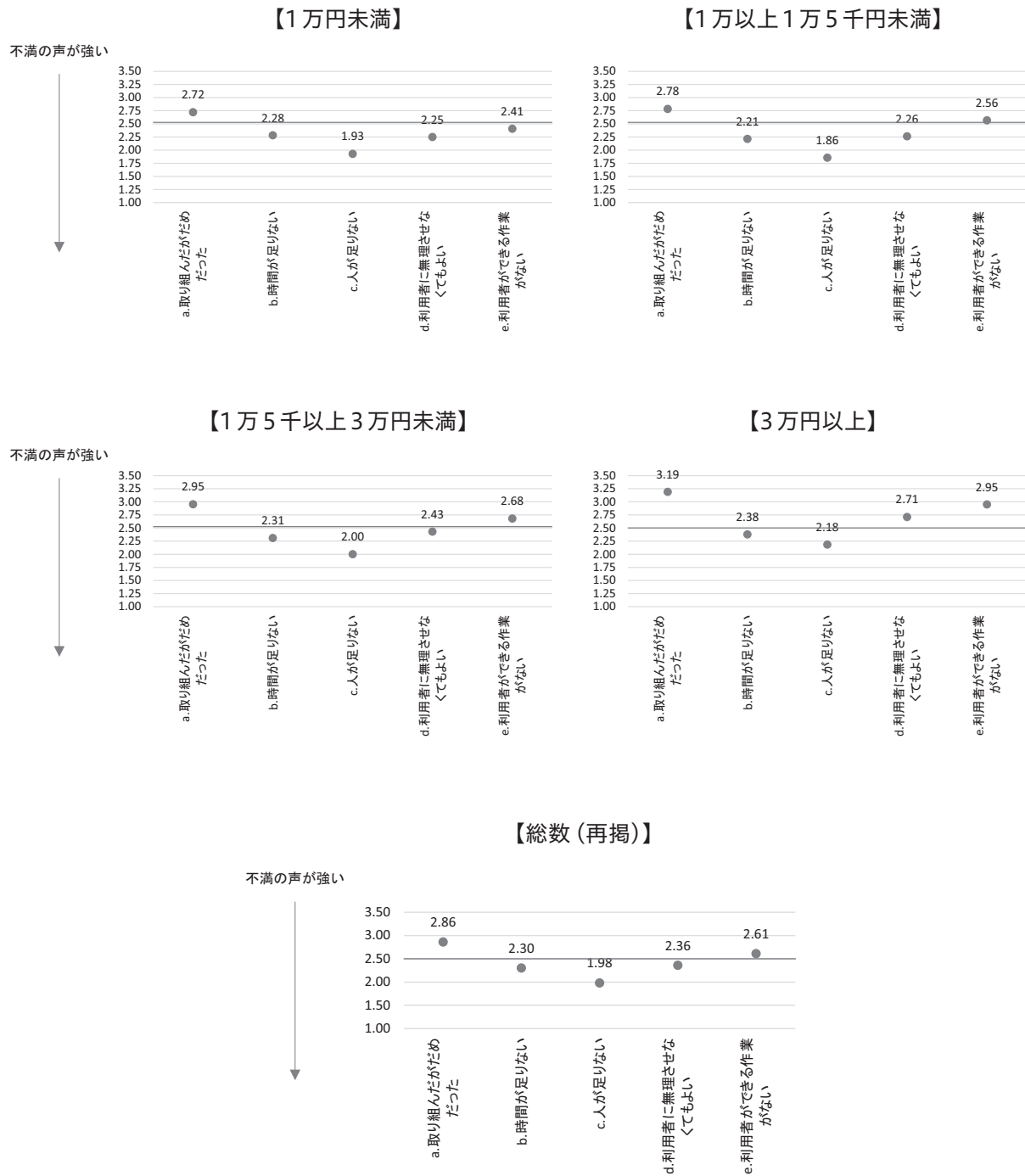


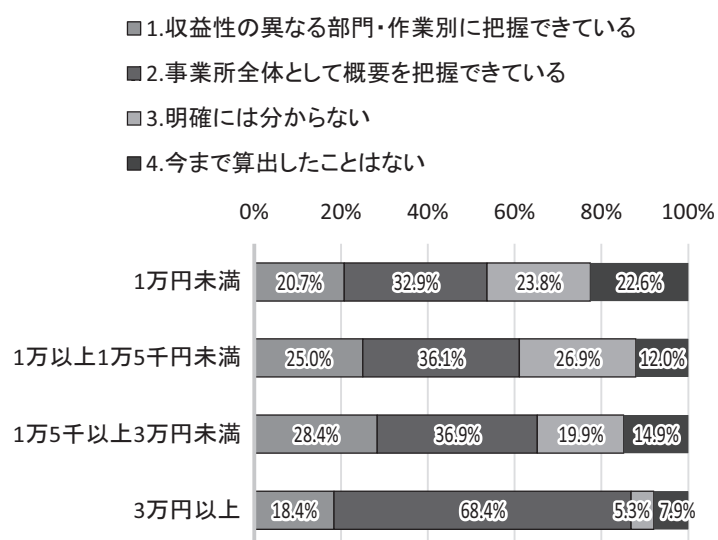
○Q19 貴事業所内で、工賃向上に対し、下記のような声はどの程度ありますか？

事業所内での工賃向上に対する否定的な声については、平均工賃クラスが低くなるにつれて、全体的にその声が強くなっていく傾向にある。



○ Q28 貴事業所において、目標工賃を支払うための損益分岐点売上高は把握されていますか？

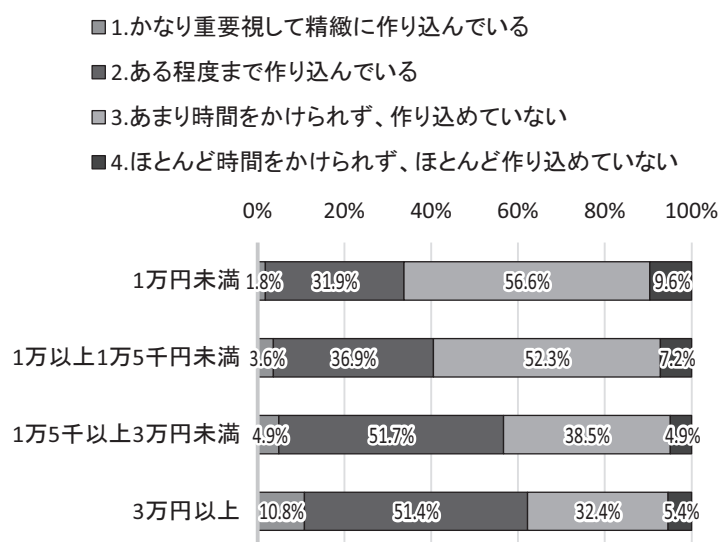
1万円未満の事業所では、「収益性の異なる部門・作業別に把握できている」「事業所全体として概要を把握できている」の合計が5割強となっている。これは工賃クラスが上がるにつれて上昇し、3万円以上の事業所では8割以上が損益分岐点売上高を把握している。



	1万円未満	1万以上 1万5千円未満	1万5千以上 3万円未満	3万円以上	合計
1. 収益性の異なる部門・作業別に把握できている	34	27	40	7	108
2. 事業所全体として概要を把握できている	54	39	52	26	171
3. 明確には分らない	39	29	28	2	98
4. 今まで算出したことはない	37	13	21	3	74
合計	164	108	141	38	451

○Q30 貴事業所において、工賃向上計画を策定する姿勢として、もっとも近いものをご記入下さい。

平均工賃1万円未満の事業所は「かなり重要視して精緻に作り込んでいる」「ある程度まで作り込んでいる」が3割強である。この比率はクラスが上がるごとに上昇し、3万円以上では6割強が計画を作り込んでいる様子が伺える。



	1万円未満	1万以上 1万5千円未満	1万5千以上 3万円未満	3万円以上	合計
1. かなり重要視して精緻に作り込んでいる	3	4	7	4	18
2. ある程度まで作り込んでいる	53	41	74	19	187
3. あまり時間をかけられず、作り込めていない	94	58	55	12	219
4. ほとんど時間をかけられず、ほとんど作り込めていない	16	8	7	2	33
合計	166	111	143	37	457

3 訪問調査結果

3 訪問調査結果

3.1 訪問調査内容

3.1.1 町屋あさがお 荒川区

『ニーズに合わせたユニット制の導入による、
利用者のモチベーションを上げる支援の導入』

基本データ

		内容
法人名		特定非営利活動法人かがやき
事業所名		町屋あさがお
住所		東京都荒川区町屋 3-28-2
事業所データ	指定年	平成 23 年
	施設種別	B 型単独
	定員数	40 名
	登録者数	53 名
	職員数	17 名
	主たる障害種別	知的障害者
	作業内容	受注：鉛筆の封入 自主：ビーズアクセサリーの製造・販売 施設外就労：清掃、パン販売、喫茶ウェイトレス
	平均工賃	(月額) (円)
	平成 27 年度	12,589
	平成 26 年度	12,235
	平成 25 年度	12,287
事業収入		(円)
	平成 27 年度	6,947,892
	平成 26 年度	7,588,544
	平成 25 年度	6,644,432

「町屋あさがお」は こんなところ



事業所概要

▶ 法人・事業所の成り立ち

平成 20 年に NPO 法人「かがやき」が設立され、平成 23 年の民営授産施設移転とともに、就労継続支援 B 型事業所「町屋あさがお」として移行しました。移行の直後に東日本大震災が訪れたこともあり、開所当初はとても苦労しました。

▶ 工賃向上に関する現在までの歴史・プロセス

利用者のほとんどは知的障害を抱える方で、平均年齢は 44 歳となっていて、利用者の高齢化の問題を抱えています。同事業所は、3 階建ての建物の、2 階と 3 階を作業場として使用しています。同事業所の一番の特徴は、利用者の作業能率に応じて階を分けている事です。2 階は自分のペースで作業する方のフロアになっており、3 階は少しでも多く稼ぎたいという方のフロアになっています。

これまでは平日の 8 時 30 分から 17 時 15 分までの時間で開所をしていましたが、月 1 回の土曜日開所の取組も始めました。土曜日開所では、運動や創作活動、また、カラオケなど平日の開所では取り組む事が難しいプログラムを提供しています。

▶ 工賃支払ルール

工賃は日給の他に作業手当や賞与（夏と冬）、最終調整手当（年度末）として支給しています。日ごろの作業工賃に関しては、能力に応じて日給 300 円から 900 円を支給し、施設外就労として、喫茶店に派遣された利用者に対しては 1 回 500 円を作業手当として支給しています。夏・冬の年 2 回支給される賞与に関しては、出席日数に応じて支給しています。

また、年度末には、最終調整を踏まえた特別支給も行っています。

作業の状況

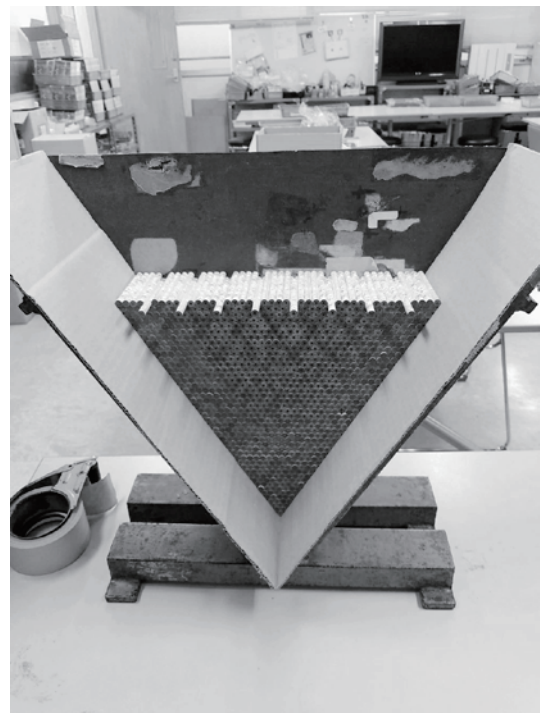
▶ 主要作業①：鉛筆の袋詰め等の請負

事業所がある町屋地域一帯は、鉛筆産業が地場産業として古くから盛んな地域です。、事業所の受注作業は、鉛筆関連の作業が中心となっています。段ボールに入って運ばれてくる大量の鉛筆の仕分け作業を行い、決められた本数で袋詰めするのが主な作業です。数百本もの鉛筆を手作業で数え、向きをそろえて綺麗に袋詰めする作業は、手間のかかる作業ですが、簡単に鉛筆の数を数えられる工具の活用等、作業能率を上げるための様々な工夫を行っています。

文房具のセッティングの仕事は、季節ごとに出荷量変動します。それにより、受注する作業量も変わるため、ピーク時はとても忙しくなりますが、納期、品質の維持は徹底しています。



【鉛筆の数量合わせ】



【鉛筆を数えるための工具】



【部品組み立て】

▶ 主要作業②：アクセサリ製品の作製・販売

同事業所では自主製品として、アクセサリを作っています。カラフルでおしゃれなアクセサリの作製にあたっては、デザイナーの意見も取り入れています。

現在、販路が限られているのが課題ですが、ホームページを活用したり、近隣の回覧板に広告を掲載したりして、販路開拓促進を行っています。



【アクセサリ製作】

▶ 主要作業③：喫茶、パン販売

派遣事業として、区立障害者福祉会館の喫茶店（アクロス荒川）へのウェイトレス派遣や、NPO 法人 荒川区心身障害者事業団（同建物の1階）での清掃業を行っています。

また、同法人内の事業所である就労移行支援事業所「小台橋あさがお」で作っているパンを、西日暮里駅の構内で販売しています。販売時の接客業の一部を同事業所が担っており、販売利益の一部をもらっています。

工賃アップのポイント

▶ ポイント①「多種の仕事を受ける事で仕事を切らさないようにする」

同事業所が常に10社以上もの業者からの発注を受けている背景には「仕事は絶対に切らさないようにしたい」という所長の考えがあります。そのため、新規の受注作業に関しては、断らずに職員間で話し合いをして挑戦する方向にしています。

利用者の方は「どんな作業でも一度はやってみる」という方針により、それまでに取り組んだ事のない作業に挑戦しています。これにより利用者の方の得意な事や苦手な事を知る機会が増えて、作業の幅を広げることにつながっています。

また、区役所の受注担当者を中心に、関連施設とのネットワークを構築しています。作業の受注に関しての情報共有を行う事で、多くの受注を受ける機会を作っています。

▶ ポイント②「品質・納期を守ることを徹底して、信頼を得る」

主要な受注作業である鉛筆関連の作業に関しては、納期、品質に気を付けることで、業者との信頼関係を築き上げています。季節ごとの業務量に変動がある作業ですが、納期を守り続けていくために、利用者のモチベーションを上げるよう職員の方々が工夫をしています。

作業能率が高く、一生懸命働きたい人たちが多く集まる3階では「今日も1日頑張ろう!」という掛け声とともに1日の作業を開始し、作業の能率が悪くなってしまったときや納期が近づいたときには、「みんなで頑張りましょう!」という声を掛け、利用者のモチベーションを高める声掛けの支援をします。

また、納期が近づいた忙しい時期には、希望者のみ、30分間限定の残業をすることもあるそうです。残業代は30分200円です。急な予定変更には戸惑ってしまう利用者は、無理をせず帰宅しますが、必要とされればされるほど頑張れる利用者に関しては、進んで残業に名乗り出てくれることも多いそうです。作業を行い、お給料をもらっているという事を、紙に絵で書いて分かりやすく伝えたりすることで、「仕事の大切さ」を感じてもらえるよう配慮をしています。

ゆったり働く2階のメンバーは、利用者間の仲がとても良く、事業所内はとても活気に満ちています。利用者の方の個々のペースで無理をせずに楽しく作業に取り組む場になっています。

また、細かい作業を得意とされる方が、自主生産品のアクセサリーを一品一品丁寧に大切に作り上げていきます。

▶ ポイント③「適宜、単価交渉して高工賃化を図る」

最近は業者との単価交渉も始めました。もちろん業者によっては断られることもあります、1円でも上げようと努力しています。

▶ ポイント④「勉強会に参加し、企業・デザイナー等と繋がる」

受注作業に関しても、自主製品に関しても、外部から情報を集めるなどしており、外部の力を借りることは怠りません。

受注作業に関しては、企業とのマッチング会を行う中でつながることが出来た新規の業者から受注した案件が、単価が高く、作業面でも好条件なものでした。

また、区内で施設同士の連携がうまく取れていて、大口の案件はみんなで分担して受注していることもあります。

また、福祉施設の有志勉強会も月1回開催しています。それまでは福祉施設の関係者のみに限られていたのですが、その勉強会の場に企業関係者やデザイナーが参加してきたことがきっかけで、デザインにもこだわるようになりました。今では自主製品のアクセサリーは、製作にあたってデザイナーの手を借りており、とてもおしゃれな出来上がりになっています。



【デザイナーによる台紙デザイン】

▶ ポイント⑤「ユニット制による利用者の希望と状態を汲んだ支援をする」

工賃向上のための最も特徴的な取り組みは、「ユニット制」です。3階建ての事業所内の作業場は、2階と3階の各階ごとに「ユニット」を区別し、1日の流れも変えています。

2階のフロアでは26人の利用者が安心して過ごせるようにし、自分のペースで作業に取り組むことを重視しています。そのため、決められた時間内にきっちり作業に取り組むというよりは、自分の体調に合わせた無理のないペースでの通所と作業を心掛けています。必要な場合には病院への付き添いや注射や投薬の見守りなどを行っています。高齢化が進んだ知的障害の方や、精神障害の方も在籍しており、平均年齢は高めです。デイサービスに近い感覚で来ている方もいらっ

しゃいます。

一転して、3 階は「稼ぎましょう！」というフロアです。3 階で働く 27 人の利用者には「働くという事は、お金だけではなく自分は社会に必要だ」と利用者自身に感じてもらいたいと所長は語ります。

このように、一つの事業所内に全く違う雰囲気フロア・ユニットを持つことで、いろんな利用者のニーズに対応することが可能になります。

新しい利用者が入った際は、2 階と 3 階の両フロアで 2 週間ずつの実習を体験してもらいます。

また利用者本人の意向を踏まえながら、不定期のフロア間の移動も行っています。全体の平均工賃は約 12,500 円ですが 3 階は約 16,000 円、2 階は 10,000 円強となっています。

今後の課題

一番の課題は、利用者の高齢化と健康管理への対応です。利用者の中には 1 日事業所に来るだけで精一杯の方もいる中で、体調が悪くなってしまう方や、病院へのスタッフの付き添いが必要な方もいます。また日頃から、運動プログラムの導入や必要な方にはカロリー制限食の提供などを行い、健康管理には留意していますが、高齢化は避けられず、日常生活に支障が出て、施設を退所される方もいるのが現状です。少しでも元気で長く通所して頂けるように継続して健康管理に取り組む必要があります。

3.1.2 就労継続支援事業所ワーク花きりん

江戸川区

『徹底した日々の改善によって、
利用者のやる気を最大限引き出す』

基本データ

		内容
法人名		特定非営利活動法人コラボえどがわ
事業所名		就労継続支援事業所ワーク花きりん
住所		東京都江戸川区中葛西 6-10-7 江戸川ビル 1F
事業所データ	指定年	平成 24 年
	施設種別	B 型単独
	定員数	20 名
	登録者数	26 名
	職員数	8 名
	主たる障害種別	知的障害者、精神障害者
	作業内容	受注：タクシー券の検品、電話のリユース、書類のスキャニング等 施設外就労：球場清掃
	平均工賃	(月額) (時間額) (円)
	平成 27 年度	8,618 325
	平成 26 年度	7,460 322
	平成 25 年度	7,368 298
	事業収入	(円)
	平成 27 年度	2,643,172
	平成 26 年度	1,972,149
	平成 25 年度	1,757,570